

令和 7 年度 事業報告及び決算

令和 8 年 5 月

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団

目 次

1	総 括	1
2	決算状況（令和7年4月1日～令和8年3月31日）	5
3	設置経営及び管理運営施設等一覧	10
4	監査の実施状況	10
5	職員の状況（令和8年3月31日現在）	10
6	令和7年度 苦情に対する解決（処理）状況	11
7	各施設・事業所の状況	12
	希望の郷	12
	未 来	14
	ワーク&デイ ラクリエ	16
	ふらっとホーム	18
	希望ホーム	19
	相談支援事業所きぼう	20
	児童デイ フラット未来	22
	ふらっと Café（地域共生事業）	23
	徳島県立障がい者交流プラザ（障がい者交流センター）	24
	徳島県立障がい者交流プラザ（視聴覚障がい者支援センター）	26
	徳島県立総合福祉センター	28
	徳島県地域生活定着支援センター	30
	徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター	32
	ノーマライゼーション促進センター	35
	徳島県パラスポーツ協会	37

令和7年度 事業報告書

1 総 括

第2次経営中期計画（令和5年度～9年度）の中間年度である令和7年度は、中期計画に法人の最重要課題として掲げた「自律的人財の確保と育成」を実現すべく、新規職員14名の採用や給与の抜本的な見直しを中心とした取組を行った。

また、中期計画の主な取組として掲げている「5つの挑戦」について、利用者や地域のニーズに応じた取組やBCMの基盤強化等、着実に取組を推進した。

【 第2次中期計画の主な進捗状況 】

挑戦1 多様なニーズに応える柔軟な福祉サービスへの挑戦

希望の郷では、本人の意思を尊重した活動として外部講師を招いた絵画講座等を開催し、利用者の生活の質向上に努めた。

挑戦2 地域における福祉課題の解決への挑戦

相談支援事業所きぼうでは、地域福祉への理解促進及び相談支援のハードルを下げるため、各種イベントにおいて定期的に相談ブースを設置した。

挑戦3 ソーシャルインクルージョンを実現するまちづくりへの挑戦

ワーク&デイ ラクリエでは、創作活動を通じた地域交流を創造するため「ふらっとアート工房」を開設し、開所イベントでは、利用者が中四国の障がい者アーティストと共に作品を制作し、交流を深めた。

挑戦4 事業継続のための経営基盤強化への挑戦

法人本部では、自律的人財の確保と育成の観点から、新規職員14名の採用、大幅な給与改定を行った。

挑戦5 感染症や自然災害に対応できるリスク管理体制づくりへの挑戦

各施設・事業所において、避難訓練や防災フェア等を開催し、防災意識の向上を図った。

【 各事業所の主な重点取組事項 】

「希望の郷」では、利用者本位のサービスの提供、本人の望む暮らしの実現、「経営基盤の強化と人材育成」に取り組み、新たに強度行動障害中核的人材者を配置し、収入のさらなる安定につながった。

「未来」では、各種委員会を設置しサービスの検証を行うとともに、施設内外での研修に参加し職員のスキル向上に取り組んだ。また、ソーシャルワーカーを新たに配置し、就業・施設体験により高校生の進路支援に努めた結果、高等部3年生全員の進路決定に繋げることができた。

ふらっとKOKUFUの「ワーク&デイ ラクリエ」生活介護事業では、利用者が中心と

なりアート活動を展開する「ふらっとアート工房」を10月1日に開所した。開所時イベントで中四国の障がいのあるアーティストが集まり利用者とともに作品の制作に取り組み、作品展を開催することができた。また、利用者一人ひとりの個性を活かし「徳島障がい者芸術祭エナジー2025」など多くの作品展に出品できた。

ラクリエの「就労継続支援B型事業」では、国府支援学校と連携し、自社栽培した作物をマルナカやイベントのマルシェにおいて販売し、生産から販売までの就労、接客体験等を行うことができた。

「ふらっとCafé」では、月に一度、子どもの居場所づくりイベント、「こども食堂」を開催し、地域課題に対して積極的に取り組み、多くの方から好評を得た。また、「徳島版ユニバーサルCafé」の更新も行い、地域の中の社会資源としての価値を高めることができた。

さらに、「ふらっとホーム・希望ホーム」では一人暮らしを希望する利用者に対して相談支援事業所と連携し、希望や課題を確認しながら居宅生活移行に向けた支援体制を整えた結果、希望ホーム利用者1名を地域移行につなげることができた。

また、地域連携推進会議を開催し、施設見学等を実施しながら地域からの理解促進、サービスの透明性及び質の確保等を推進することができた。

「相談支援事業所きぼう」では、相談支援事業・地域生活支援拠点事業・障害者虐待防止センター等業務の3事業が一体となって支援することで、地域における「切れ目のない支援」と「権利擁護のセーフティネット」の充実化を図り、安定的な相談支援体制の維持・強化に努めた。

「児童デイ フラット未来」では、ワーク&デイ ラクリエの就労体験を通じた社会参加意識の育成を図った。また、徳島文理大学音楽療法コースの学生および教員による音楽療法を毎月継続して受講し、表現活動や情緒の安定、対人関係の向上に努めた。加えて、地域交流として、地域の子どもや保護者と共同で制作活動に取り組み、相互理解と親睦を図った。

「障がい者交流センター」では、例年同様、プラザフェスタにて、特別支援学校生徒の演奏やプラザで活動しているサークルの発表会、作品の展示等を行うとともに、地域の方へ向けた防災講座を開催し、好評を得ることができた。

「視聴覚障がい者支援センター」では、令和7年度から点訳奉仕員養成講座をオンライン講習として、時間や場所に捉われない受講環境を整備することで、情報保障等を担う福祉人材の育成強化に努めるとともに、障がい者ICTサポートセンターを拠点として、相談・研修等を通じて視聴覚障がい者の方が情報通信技術（ICT）に触れる機会を拡大し、情報へのアクセスを円滑に行えるよう支援をした。

「徳島県立総合福祉センター」では、会議室の利用が好調であるとともに、徳島県との協働による「生涯健康フェア」をはじめ、「防災・防犯フェスタ」及び地域と子ども達の相互交流を図る「ジョイントコンサート」等を開催した。

「徳島県地域生活定着支援センター」では、県内関係機関との連携強化と相互のネットワークの構築により、再犯防止を推進する「あわサポートネット」を県内3箇所で開催するとともに、「再犯防止講師派遣事業」を実施した。

「徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター」では、令和6年度に引き続き2回目の開催となる「みんなの創造フェスター2026とくしま障がい者芸術・文化祭」を、あわぎんホールを会場として開催した。また、手話言語条例制定元年を記念し、手話の表現で歌うホワイトハンドコーラス隊を徳島聴覚支援学校の児童生徒で結成し、徳島交響楽団などと共にヴェートーベン作曲の「第九」を披露するなどし、フェスタのオープニングを飾り好評を博した。

また、「ふらっとアート工房」の開所記念として「ふらっとアート工房AIR」を開催し、中国・四国地区から4名の障がい者アーティストを招へいし、工房での制作活動の様子を一般公開するとともに、施設利用者との交流を行なった。

「徳島県パラスポーツ協会」では、中国四国ブロック予選会への団体競技の参加を目的とし、知的バレーボール競技と知的フットソフトボール競技の選手発掘を行った。知的フットソフトボール競技はチームを設立し、中国四国ブロック予選会に参加した。

また、10月には第24回全国障害者スポーツ大会（わたSHIGA 輝く障スポ）に選手団総勢69名を派遣した。選手は日頃の練習の成果を発揮し、多くのメダルを獲得することができた。

【 法人全体にかかる取組 】

「人材育成」については、令和6年度に引き続き、法人全体の新規採用職員を対象とした法人内事業所ツアー及び新任職員研修を実施し、好評を得ることができた。また、階層別研修として新任フォローアップ研修を実施し、延べ29名が参加した。一般職員に向けた研修においては、アンケートを実施し、対象者の希望に沿う研修内容を企画した。

「リクルート活動」については、6月開催の「福祉就職転職ガイダンス」（13名来訪）、7月開催の健祥会学園「卒業生と在校生がつながる会」（12名聴講）、及び12月開催の「四国大学学内企業研究会」（3名来訪）に参加し、新規職員獲得に繋げることができた。

「広報」では、広報担当者を中心に広報紙「かけはし」の作成や法人ホームページ及びソーシャルメディアを活用した広報活動に注力した。ソーシャルメディアでは、法人内の各事業所が自らの情報を発信することに加え、他の部門の活動内容も発信したことで、法人全体の取組を多くの人に知ってもらうことができた。

「大学連携」については、令和6年度に引き続き、四国大学教授による生成A Iの業務活用をゴールとした法人内研修を実施し、A Iを利用したパワーポイントの作成等を体験した。

「子育て支援」では、必要な事業所へ必要な支援が行える体制整備を目的に、法人内副業制度の導入に向け、概要作成やニーズ調査等を実施した。

「法人後見」では、利用者や家族の将来不安に対応する成年後見制度相談窓口の設置に向け、大分県社会福祉事業団の先進事例視察や研修受講を通じて、体制整備と知識習得に努めた。

「働きやすい職場環境づくり」においては、法人の「徳島県がん検診受診促進事業所」への登録、職員研修（ハラスメント防止・カスタマーハラスメント・メンタルヘルス等）の実施、ストレスチェック分析結果に応じた顧問社会保険労務士と職員との職場環境改善に向けた話し合い等を実施した。また、「身近な相談窓口」に寄せられた相談には、速やかにきめ細かく対応し、職員の心身の健康維持に努めた。

「コンプライアンスの推進」について、各事業所は「6項目の推進指針」に基づき、業務内容に応じて年度の推進目標を設定して取り組み、その取組結果について評価を行うことにより、翌年度の推進目標を定めている。

「事務事業の効率化」については、令和7年7月より、法人事務局に事務センターを開設し、これまで各事業所で行っていた会計業務を集約することとした。その結果、多忙期の協力体制の構築や事業所間の情報共有の強化を図ることができている。

「防災」については、各事業所で避難訓練や避難所開設訓練を行うとともに、交流プラザの地域防災訓練や総合福祉センターの防災フェアにより、防災意識の向上を図った。

2 決算状況（令和7年4月1日～令和8年3月31日）

（単位：円）

区 分	決 算 額	前年度決算額	増 減	前年比 (%)
事業活動による収入 (1)	1,587,066,375	1,579,102,174	7,964,201	100.5
施設整備等による収入 (2)	19,592,179	4,504,045	15,088,134	——
その他の活動による収入(3)	124,354,889	28,210,006	96,144,883	——
収入合計(1)+(2)+(3)	1,731,013,443	1,611,816,225	119,197,218	107.4
事業活動による支出 (4)	1,371,426,070	1,388,295,921	△16,869,851	98.8
うち、人件費支出	883,254,343	898,413,323	△15,158,980	98.3
事業活動収入に対する人件費比率	55.65%	56.89%	——	——
施設整備等による支出 (5)	61,317,114	69,845,936	△8,528,822	——
その他の活動による支出(6)	126,036,094	118,103,228	7,932,866	——
支出合計(4)+(5)+(6)	1,558,779,278	1,576,245,085	△17,465,807	98.9
当期資金収支差額(7)	172,234,165	35,571,140	136,663,025	——
(ア)事業活動資金収支差額(1)-(4)	215,640,305	190,806,253	24,834,052	113.0
(イ)施設整備等資金収支差額(2)-(5)	△41,724,935	△65,341,891	23,616,956	——
(ウ)その他の活動資金収支差額(3)-(6)	△1,681,205	△89,893,222	88,212,017	——
前期末支払資金残高(8)	698,984,172	663,413,032	35,571,140	105.4
当期末支払資金残高(7)+(8)	871,218,337	698,984,172	172,234,165	124.6

事業活動面では、事業活動による収入は、1,587,066千円（前年度1,579,102千円）となり、前年対比100.5％となっており、確実に収入の伸びを確保している。これは、希望の郷における介護給付費収入や未来における措置費収入をはじめ、ふらっとKOKUFUの就労支援事業収入の増加等が、主な要因となっている。

一方、事業活動による支出は、1,371,426千円（前年度1,388,295千円）となり、前年対比98.8％となっているが、物価高騰、光熱水費の高騰がある中で、各事業所において効率的な予算執行に努め支出を抑えた。

なお、人件費は、883,254千円（前年度898,413千円）で、給与や諸手当改善を行ったが、前年対比98.3％となっている。収入に対する人件費支出の割合は55.65％と前年度並みとなっている。

この結果、(ア)事業活動資金収支差額については、215,640千円（前年度190,806千円）となり、前年対比113.0％となっている。

次に、施設整備等の収支については、収入19,592千円（前年度4,504千円）であ

り、希望の郷におけるＩＣＴ補助金（７５０千円）、ふらっとＫＯＫＵＦＵにおける福祉車両整備に伴う補助金（２，５００千円）による施設整備等補助金収入などが主な内容である。

支出については、６１，３１７千円（前年度６９，８４５千円）であり、希望の郷における防犯カメラ増設等に伴う器具及び備品取得（３，２７６千円）、未来における手洗い設置工事（３，５０６千円）、ふらっとＫＯＫＵＦＵにおけるアート工房建物改修等（３４，１７３千円）、補助金を活用した福祉車両の導入（４，１８８千円）に伴う固定資産支出などが主な内容である。

この結果、（イ）施設整備等資金収支差額は、△４１，７２４千円となった。

また、その他の活動の収支については、収入１２４，３５４千円（前年度２８，２１０千円）、支出１２６，０３６千円（前年度１１８，１０３千円）となり、（ウ）その他の活動資金収支差額は、△１，６８１千円となった。これは、希望の郷における将来の大規模な改修等に備え、２０，０００千円を施設整備等積立資産に計画的に積み立てたものである。

以上のことから当期資金収支差額については、１７２，２３４千円となり、前期末支払資金残高に加えると、当期末支払資金残高は、８７１，２１８千円となった。

○ 計算書類に対する注記（法人全体用）

別冊 計算書類のとおり

○ 財産目録（令和８年３月３１日現在）

別冊 計算書類のとおり

資金収支計算書総括表

(自) 令和7年4月1日 (至) 令和8年3月31日

(10 拠点区分合計)

(単位: 円)

区 分	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	差異 (A) - (B)
事業活動による収入	1,581,930,000	1,587,066,375	△ 5,136,375
施設整備等による収入	19,457,000	19,592,179	△ 135,179
その他の活動による収入	124,369,000	124,354,889	14,111
収入合計	1,725,756,000	1,731,013,443	△ 5,257,443
事業活動による支出	1,402,095,000	1,371,426,070	30,668,930
施設整備等による支出	61,854,000	61,317,114	536,886
その他の活動による支出	126,139,000	126,036,094	102,906
支出合計	1,590,088,000	1,558,779,278	31,308,722
当期資金収支差額	135,668,000	172,234,165	△ 36,566,165
前期末支払資金残高	698,984,172	698,984,172	0
当期末支払資金残高	834,652,172	871,218,337	△ 36,566,165

事業活動計算書総括表

(自) 令和7年4月1日 (至) 令和8年3月31日

(10 拠点区分合計)

(単位: 円)

区 分		当年度決算額 (A)	前年度決算額 (B)	増 減 (A) - (B)
動 増 減 の 部 サ ー ビ ス 活 動	サービス活動収益(1)	1,578,218,432	1,566,546,134	11,672,298
	サービス活動費用(2)	1,422,049,715	1,440,970,016	△ 18,920,301
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	156,168,717	125,576,118	30,592,599
動 外 増 減 の 部 サ ー ビ ス 活 動 外	サービス活動外収益(4)	9,828,762	12,826,371	△ 2,997,609
	サービス活動外費用(5)	1,579,886	3,065,935	△ 1,486,049
	サービス活動外増減差額 (6)=(4)-(5)	8,248,876	9,760,436	△ 1,511,560
経常増減差額(7)=(3)+(6)		164,417,593	135,336,554	29,081,039
特 別 増 減 部	特別収益(8)	5,521,509	13,054,269	△ 7,532,760
	特別費用(9)	6,831,204	3,768,005	3,063,199
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 1,309,695	9,286,264	△ 10,595,959
税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		163,107,898	144,622,818	18,485,080
法人税、住民税及び事業税(12)		1,636,500	1,014,300	622,200
当期活動増減差額(13)=(11)-(12)		161,471,398	143,608,518	17,862,880
繰 越 活 動 増 減 差 額 の 部	前期繰越活動増減差額(14)	1,627,822,912	1,568,903,435	58,919,477
	当期末繰越活動増減差額(15)=(13)+(14)	1,789,294,310	1,712,511,953	76,782,357
	基本金取崩額(16)	0	0	0
	その他の積立金取崩額(17)	117,701,520	78,112,700	39,588,820
	その他の積立金積立額(18)	120,980,819	162,801,741	△ 41,820,922
	次期繰越活動増減差額(19)=(15)+(16)+(17)-(18)	1,786,015,011	1,627,822,912	158,192,099

3 設置経営及び管理運営施設等一覧

(令和8年3月31日現在)

区 分	施 設 種 別	施 設 名 等	定 員 (名)			現員
			入所	通所	利用	
設置経営	障害者支援施設	希望の郷（入所）	115	—	—	113
		希望の郷（短期入所）	5	—	—	—
	障害児入所施設	未来（入所）	60	—	—	43
		未来（短期入所）	4	—	—	—
	児童発達支援事業 放課後等デイサービス事業	児童デイフラット未来	—	15	—	—
	多機能型事業所	ワーク&デイ ラクリエ	—	60	—	51
	共同生活援助事業	ふらっとホーム	12	—	—	12
		ふらっとホーム（短期入所）	3	—	—	—
	共同生活援助事業	希望ホーム	13	—	—	13
	相談支援事業所	きぼう	—	—	—	—
管理運営	—	徳島県立総合福祉センター	—	—	625	—
	—	徳島県立障がい者交流プラザ （障がい者交流センター）	—	—	227	—
	視聴覚障害者情報提供施設	徳島県立障がい者交流プラザ （視聴覚障がい者支援センター）	—	—	—	—
そ の 他	—	徳島県地域生活定着支援センター	—	—	—	—
	—	ノーマライゼーション促進センター	—	—	—	—
	—	公益財団法人徳島県福祉基金事務局	—	—	—	—
	—	徳島県パラスポーツ協会事務局	—	—	—	—
—	合 計	—	212	75	852	232

(注) ワーク&デイ ラクリエの通所定員・現員は、生活介護事業、就労移行及び就労継続支援B型の合計利用者数を記載していること。

4 監査の実施状況

(1) 公認会計士による指導監査

監査対象 令和7年度
 監査内容 税理士法人日本会援隊徳島事務所 公認会計士による監査を実施

5 職員の状況（令和8年3月31日現在）

- (1) 職員総数 231名（内訳：職員91名、専門職員（無期）28名、
 臨時職員33名、無期非常勤職員30名、非常勤職員等49名）
 前年度 236名（内訳：職員86名、専門職員（無期）29名、
 臨時職員38名、無期非常勤職員28名、非常勤職員等55名）
- (2) 平均年齢 43.8才（職員のみ）
 前年度 44.6才（職員のみ）
- (3) 男女内訳 男子34名、女子57名（職員のみ）
 前年度 男子36名、女子50名（職員のみ）

6 令和7年度 苦情に対する解決（処理）状況

施設名			希望の郷	未来	ワーク & デイ ラクリエ	ふらっと ホーム	希望 ホーム	相談支援 事業所 きぼう	児童デイ フラット 未来	視聴覚 障がい者 支援セン ター	合計	比率(%)
前年度受付件数			57	7	4	0	0	4	1	1	74	—
受付件数			6	6	9	10	9	3	1	3	47	—
申出者	利用者		1	0	3	9	9	0	0	1	23	48.9%
	保護者		2	5	5	1	0	0	1	0	14	29.8%
	地域		3	0	1	0	0	0	0	0	4	8.5%
	その他		0	1	0	0	0	3	0	2	6	12.8%
	計		6	6	9	10	9	3	1	3	47	100.0%
申出方法	口頭		3	2	4	1	1	1	0	0	12	25.5%
	電話		2	2	3	0	0	2	1	3	13	27.7%
	意見箱		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	その他		1	2	2	9	8	0	0	0	22	46.8%
	計		6	6	9	10	9	3	1	3	47	100.0%
苦情の区分	苦情		5	2	9	8	2	0	1	3	30	63.8%
	要望		1	1	0	2	7	0	0	0	11	23.4%
	意見		0	2	0	0	0	1	0	0	3	6.4%
	その他		0	1	0	0	0	2	0	0	3	6.4%
	計		6	6	9	10	9	3	1	3	47	100.0%
苦情の主訴	職員の接遇		1	3	4	7	0	0	0	1	16	34.0%
	利用者関係		0	2	1	1	2	0	0	0	6	12.8%
	契約内容		0	0	0	0	1	0	0	0	1	2.1%
	利用料・預り金		1	0	0	0	1	0	0	0	2	4.3%
	説明・情報提供		0	0	3	0	0	0	0	2	5	10.6%
	被害・損害		0	0	1	0	0	0	0	0	1	2.1%
	権利侵害		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	施設・設備		1	0	0	0	0	0	0	0	1	2.1%
	その他		3	1	0	2	5	3	1	0	15	31.9%
	計		6	6	9	10	9	3	1	3	47	100.0%
※1 苦情の区分、苦情の主旨については、重複の項目あり												

希望の郷

希望の郷は、主に知的に障害を有する方が利用する障害者支援施設であり、日中は、生活介護事業、自立訓練事業、夜間は施設入所支援事業、短期入所事業を実施している。施設では、利用者意思決定のもと日常生活と社会活動参加を促進、本人の望む暮らしの実現に向けてサービスの提供を行っている。また、徳島市の地域生活支援拠点として、緊急短期入所受け入れ・体験の場地域の体制づくりを担う施設としての役割を担っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

重点目標である「利用者本位のサービスの提供」では、本人の望む暮らしを実現し、「経営基盤の強化と人材育成」に取り組み、新たに強度行動障害中核的人材者を配置し、収入のさらなる安定につながった。「防災の取り組みと地域貢献」では、危機管理体制整備と職員の危機意識向上を図った。

入退所の状況

(単位：名)

令和7年4月1日現在 前年度継続利用者数	新規契約者数	契約解除者数	令和8年3月31日現在 利用者数
115	8	10	113

事業別の利用状況

(単位：名)

	定員	現員		定員	延べ利用者数
生活介護	115	111	短期入所	5	219
施設入所支援	115	113			

2 重点取組事項

(1) 利用者本位のサービスの提供について

① 生活の質向上と利用者の意思尊重した活動

外部講師を招き絵画講座等を開催

- ・己書講座 7回開催 エナジー展 展覧 さらざ賞受賞
- ・芸術サークル 月2回講師を迎え、イベントに作品出展やエイサー踊りを披露
徳島障がい者芸術祭エナジーの出展 エナジー大賞を受賞

② 高齢重度化に伴う機能低下への対応について

- ・生活リハビリ 3,419人【個別1,131名、集団2,288名実施】
- ・口腔ケア 歯科衛生士と支援員が連携し月200回以上実施
多職種連携（支援員・管理栄養士・看護師・言語聴覚士）により摂食嚥下改善に取り組んだ。

③ 支援向上のため外部コンサルテーション活用

強度行動障害外部専門家の視点を取り入れ、支援スキルの向上を図った。

- ・訪問コンサルテーション 72回実施
- ・実地研修 5回開催

④ 本人の望む暮らし実現

- ・地域移行利用者 2名

(2) 経営基盤の強化と人材育成

①人材確保

- ・実習生受け入れ6名・36日間により採用試験受験者につながった。

②人材育成

- ・派遣研修（強度行動障害養成者研修講師）、事業内外研修121回
- ・他法人連携会議及び大学教授を迎えた応用行動分析研修を実施
- ・権利擁護専門家による人権意識向上のための研修を実施

③質の高いサービスの提供

- ・A I 掃除ロボットを導入、美化専門の職員を雇用
- 快適な空間や地域景観の向上、来訪者や職員の満足度向上を実現、支援員が福祉従事に集中できる環境整備を行う。

(3) 防災の取り組みと地域貢献

① 危機管理体制

- ・地震・火災・津波を想定した訓練を毎月開催、総合防災訓練を実施
- ・施設の安全・安心を確保するため、徳島中央警察署共催防犯訓練を実施

② 地域の社会資源

- ・地域に開かれた施設を目指し地域住民を招いた「さとまつり」を開催
- ・地域連携推進会議2回(参加者：利用者・家族・行政・地域住民・職員)

③ 新型コロナウイルスなどの対策について

- ・総合防災訓練及び非常食訓練を実施
- ・外部講師（徳島市消防署）を招いてのBCP研修を実施



▲エナジー大賞



▲己書講座



▲ユニバーサル芸術祭



▲口腔ケア



▲施設内研修



▲防災訓練

未 来

障害児入所施設未来は、知的障がい児を主たる対象とする定員60名の福祉型障害児入所施設として徳島市国府町において平成27年度から事業を行っている。また、障害児短期入所事業も行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

本年度の障害児入所施設は、入所相談や関係機関への呼びかけ等を行い、入所児童の増加に取り組んだ結果、5名の入所があり、月次平均利用者は50.8名（前年対比94.7%）となった。なお、年度末には、高等部卒業者の成人サービスへの移行や家庭引き取り等による退所に伴い、43名（前年対比84.3%）となった。

また、障害児短期入所事業（自宅で介護する方が病気等の場合に、障害児を受け入れて食事や入浴等の支援を行う）は、保護者のレスパイト利用のニーズに応えるため、令和3年度から併設型4名に加え、空床型短期入所を開始したことにより1,092日（前年対比84%）の利用実績となった。

① 障害児入所施設（入所定員：60名）

区分 性別	令和7年3月31日 現在入所者数	入所者数	退所者数	令和8年3月31日 現在入所者数
男	37	5	11	31
女	14		2	12
合 計	51	5	13	43

利用者内訳：措置利用者23名、契約利用者20名（前年度 措置29名、契約22名）

② 障害児短期入所事業（利用定員：4名／日及び本体施設の空床）

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	197	27	0	224
(2) 利用実績	1,092日（前年度実績1,300日）			

2 重点取組事項

(1) 利用者の確保

利用者の確保に向けて児童相談所との連携をはじめ、入所及び短期入所の利用希望のあった保護者に対する入所相談や関係機関への呼びかけを行い、利用者の確保に努めた。

(2) サービス向上への取組み

施設内に、虐待防止委員会、保健衛生委員会、安全防災委員会、給食委員会などの委員会を設置し、サービスの検証・改善、利用者満足度向上への取組みを行った。

短期入所事業については、従来からの併設型に加え、本体施設の空床を活用した空床型短期入所事業を行い、保護者のレスパイト利用等のニーズに応えた。

人材育成については、感染症拡大防止研修、虐待防止研修などの職場内研修（OJT 研修）を行うとともに、強度行動障がい支援者養成研修、サービス管理責任者等研修、メンタルヘルス研修などの職場外研修（OFF-JT 研修）に参加させた。

(3) 高校生の未来退所後の進路の支援

ソーシャルワーカーを新たに配置するとともに、高校生の未来退所後の進路について、就業・施設体験等により支援を行った。その結果、高等部3年生9名のうち、8名が成人施設等へ移行し、1名が成人施設の入所待機になった。

(4) 各種行事の実施

入所児童の情緒面での成長や心健やかに過ごせるよう、親子日帰り旅行、ドッグセラピー、かき氷、バーベキュー、クリスマス会、お楽しみ外出などの各種行事を積極的に実施した。

(5) 地域貢献と地域連携

未来フェスティバルは、ふらっと KOKUFU と同時開催し、多くの地域の方々等に来園いただいた。

また、地元のボランティアグループ気延クラブの方々に来園いただき、児童と一緒にお餅つきを行い、交流を深めた。

さらに、清掃ボランティアや保育士の実習生の受入れを積極的に行った。

(6) 防災への取組

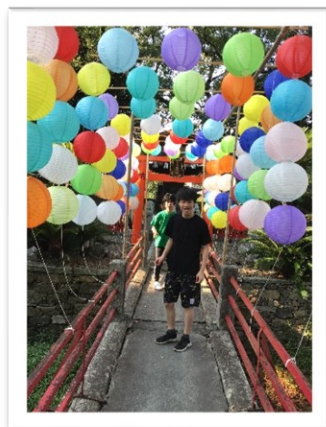
自然災害に対応するため、公用の電気自動車を1台配置した。



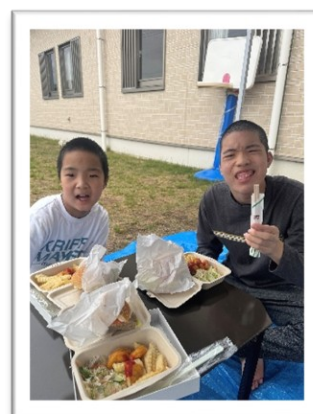
▲親子日帰り旅行



▲お楽しみ外出



▲近隣散策



▲お外でランチ

ワーク&デイ ラクリエ（生活介護・就労移行・就労継続支援B型）

ワーク&デイ ラクリエは、令和3年9月1日に希望の郷の通所機能（生活介護、就労移行及び就労継続支援B型）を移管し多機能型事業所としてスタートした。障がいのある方々が地域社会の一員として輝けるように、利用者の「ありのまま」を受け入れ、個人としての「自己選択」と「自己決定」を尊重し、ライフステージやニーズに応じて、自立した地域生活を営むことができるように運営を行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

（1）進捗状況

（生活介護事業）

今年度は8050問題が顕著に表れた結果となり、通所利用から入所利用へとサービスの転換を行った利用者がたくさんいた結果、定員を下回る利用となった。

職員体制で強度行動障がい者支援従事者研修受講などを行い、行動障がいのある利用者の受入れなども進めた。

（就労継続支援B型事業・就労移行支援事業）

地域の特色を生かしノウフク連携で、自社農場で栽培収穫した作物を地元企業や直売所などで販売を進め地産地消・作業収入増につなげることができた。しかし、物価高騰や異常気象などにより十分な生産までには至っていないところも課題となった。

利用者においても、就労に積極的に取り組みたいニーズと、日中活動の場として参加したいというニーズがあるため、事業所運営においても一人ひとりのニーズに沿える体制を整備していくよう取り組んだ。

事業別の利用状況（令和8年3月31日現在）

	定員	現員	平均利用者数	前年度
生活介護事業	30人	29人	22.0人	24.3人
就労継続支援B型事業	24人	22人	19.7人	19.4人
就労移行支援事業	6人	0人	0.1人	0.2人

2 重点取組事項

（1）多様なニーズに答える利用者サービスの向上

個性を生かした芸術文化活動に力を入れ、アート工房での活動を進めた。特に10月1日にふらっとアート工房の開所時には、中四国地区アーティストを招待し作品の共同制作などで芸術活動への機運を高めることができた。結果、全国公募「Tシャツデザイン展」「徳島障がい者芸術祭エナジー2025」「アーティストの卵展」など各種イベントに多くの作品を出品した。また、佐賀県で開催された全国公募の作品展「関係するアート展」では、利用者、ご家族、職員が現地でイベントに参加することもできた。

強度行動障害を有する利用者の支援については、職員が研修を重ね本人の生活が安定できるよう工夫を行った結果、保護者の方からの評価をいただいている。

就労支援において、農業の取り組みでは暑い中も一生懸命栽培した野菜を直接利用者が販売する機会も増えた。国府支援学校との交流を強め地域に根付いてきた「ふくっとマルシェ」は年間4回を実施した。販売の知識や接客訓練等も行い地域の触れ合いや職業体験なども進めることができた。また、地域貢献としての「ほっとかない事業」を定期的に開催し、地域の方の理解と賛同を得る活動も利用者の楽しみの一つとなっている。

施設内での委託作業、屋外での農業、清掃作業などを計画的に就労の機会として提供し、

利用者の望む暮らしの実現のために利用者、職員ともにスキルアップを図れるように取り組んでいる。

家族会とは秋祭りや日帰り旅行、職員との合同研修など積極的に施設運営に協力を得ることができた。

(2) 新規利用者の獲得における経営の安定

利用者獲得のため相談支援事業所との連携を密にしてきた。支援学校による施設実習を積極的に受け入れ生徒及び保護者の見学なども行って利用者獲得につなげてきた。その他、インスタグラム等での情報発信も定期的に行い、開けた施設運営を実践した。

(3) 福祉人材の定着と育成

強度行動障がい支援者養成研修、就労関係研修など職員の資質向上のための外部研修の参加促進とともに、新任職員への親切丁寧なOJTの実施、ふらっと KOKUFU 全体での各種委員会活動への参加などを進め、職員の定着と育成を図った。特に、虐待防止委員会、防災防犯委員会、感染症対策委員会などでは、施設の必須研修として、職員の質の向上の実践を図った。

また、法人での「職場での困りごと相談窓口」などの設置、コンプライアンス計画に沿った法令順守なども徹底を図った。

3 地域貢献の取組

ふらっと KOKUFU 全体での地域共生委員会での活動として、地域へ向けたイベントの子ども食堂、子どもの居場所作りなどで職員が積極的に取り組んだ。また、近隣施設での清掃作業、遊休地での農業の取り組みなど地域との積極的な働きかけを行い地域共生社会の実現の実践に努めた。



ふらっとアート工房開所式



にんにく収穫



クリスマス会



防災体験



ふくっとマルシェ



秋祭り

ふらっとホーム

EAST（東男子棟）・WEST（西女子棟）における共同生活を通じ、利用者が地域社会の一員として自立した生活を営めるよう支援を継続した。運営面では、夜間支援員の配置による24時間体制を維持し、利用者へのきめ細かな対応と安全確保に注力した。また、短期入所の受け入れも積極的に行ない、地域ニーズへも対応して、地域福祉の拠点としての役割を遂行した。

1 事業活動の概況と進捗状況

<共同生活援助>

ふらっとホームでは、地域の中にある共同生活住居で生活を営む利用者に対し、24時間体制で世話人が食事の提供、健康管理等を中心に支援し、支援員が日中に、通院支援、余暇支援、居室の整理整頓、就労支援等を含む日常生活上の必要な相談・支援等の提供を行ない、夜間支援員においては夜間安心安全に生活が営まれるよう支援を行なった。

通過施設として、気軽に相談できる体制を維持し、アンケート調査を実施し、将来一人暮らしを希望する利用者に対してはニーズの把握に努めた。

利用状況（令和8年3月31日現在）

共同生活援助	定員	現員	平均利用者数（令和6年度）
EAST（男子棟）	6名	6名	5.6名（5.8名）
WEST（女子棟）	6名	6名	5.7名（5.7名）

<短期入所>

土・日曜日の利用者数が減ったが、新規利用契約、毎月固定利用等があり、食事、余暇等の充実が図られ、世話人、夜間支援員の寄り添った生活支援の確立に努めた。

利用状況（令和8年3月31日現在）

短期入所	延利用人数	短期入所	延利用人数
令和6年度	381名	令和7年度	239名

2 重点取組事項

（1）サービス提供体制の充実と向上

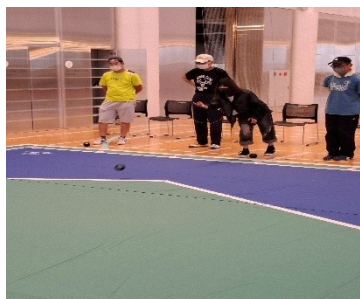
利用者への質の高いサービスの提供を目指し、職員の資質向上と利用者本位のサービス実現の為に、施設内外の各種研修や会議等で自己研鑽を図るとともに、職員の育成及びサービスの質の向上に推進した。

（2）地域移行支援の推進

将来的な地域移行および一般就労を見据え、個別の目標設定に基づき課題を明確化した。生活スキルの向上を図るとともに、外出支援や就労支援を通じて、社会性や社会ルールの習得に向けた包括的な支援を展開した。4月より一般就労1名、地域移行1名を実現した。

（3）自然災害等に対応できる管理体制の強化

ふらっとホーム独自で夜間を想定した避難訓練をするとともに、ふらっとKOKUFUで実施された避難訓練にも参加し、それぞれが防災知識の向上が図られるように努めた。



<ぼっちゃ交流会>



<食 事 会>



<豆 ま き>

希望ホーム

利用者の意思や人格を尊重し、本人らしく自立と社会参加を促進する個別支援計画を作成し、豊かで生き甲斐のある生活が送れるよう支援とサービスを提供した。また、関係機関と連携を図りながら一般就労8名、福祉的就労5名が生活の中心である就労に取り組んだ。

1 事業活動の概況と進捗状況

希望ホームでは、地域の中にある共同生活住居で生活を営む利用者に対し、世話人が朝夕の食事の提供、健康管理を中心に支援し、支援員が日中に通院支援、余暇支援、居室の整理整頓、就労支援等、日常生活に必要な相談・支援等においてスクラムを組みながら総合的なサービスの提供に努めた。高齢化への対応として、高齢の利用者がその人らしく安心して出来る限り地域で暮らしてもらえよう支援体制を構築し、職員のスキル向上を推進した。

利用状況（令和8年3月31日現在）（前年度）

定員	現員	平均利用者数	定員	現員	平均利用者数
13名	13名	13.0名	13名	13名	12.7名

2 重点取組事項

（1）利用者の意思決定支援の充実とサービスの質の向上

利用者が地域でその人らしく安心して自立した暮らしを続けていけるよう、日々の対応において本人の思いと自己決定を尊重する姿勢を大切にし、個々の生活スタイルに寄り添ったサービスの提供に努めた。

サービスの質を向上させる為、定期連絡会、施設内外の研修の参加を通して利用者の状態等の把握と情報共有を図りながらチーム連携を強化し、実践を図った。また、第三者評価を受審し、評価を通じてサービスの現状を明確にしながら改善に取り組んだ。

（2）地域移行支援サービスの充実

利用者の希望するスタイルで生活できるよう、利用者の健康管理、対人関係の調整、適切な金銭管理、余暇活動等について情報共有を図りながら支援を実施した。

一人暮らしを希望する利用者に対してはサテライト住居を利用し単身生活に必要な調理・金銭管理・掃除等において職員間で連携を図りながらステップアップが図られるよう支援を行った。

（3）防災・感染症対策の充実

避難確保計画・事業継続計画の見直しを実施するとともに年3回の地震・水害等を想定した避難訓練及び水消火器を使った消火訓練を実施した。また、訓練終了後にはそれぞれのテーマに沿った防災教育を実施し、防災知識・自己防災の向上を図った。感染症マニュアルに沿って日頃から感染症防止に努めるとともに、情報共有・研修・訓練等に参加し、利用者が安心して生活を送れるよう努めた。



<日帰り旅行倉敷観光>



<夜間想定防災訓練>



<妙見字での花見>

相談支援事業所きぼう

相談支援事業所きぼうは、平成 25 年 4 月から一般・特定・障害児相談支援事業を開始し、徳島市からは「徳島市障害者相談支援事業」「徳島市地域生活支援拠点事業」「徳島市障害者虐待防止センター等業務」の 3 事業を受託している。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

7 年度は相談支援専門員 6 名体制により事業開始し、地域ニーズに即した柔軟な支援を展開した。特に、報酬改定の趣旨を踏まえた適切な加算の算定のみならず、相談支援の質の更なる向上を目標に掲げ、計画的な研修機会の確保と事例検討を実施した。この取り組みにより、専門職としての個々のスキルアップと、事業所全体としての相談支援体制の強化を行うことができた。

(2) 相談件数の状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

事業種別	サービス種別	R 7 年度	R 6 年度
特定相談支援事業	サービス利用支援	534	420
	継続サービス利用支援	1,117	1,173
	計	1,651	1,593
障害児相談支援事業	障害児支援利用援助	168	182
	継続障害児支援利用援助	185	220
	計	353	402
一般相談支援事業	地域移行支援	0	0
	地域定着支援	0	0
	計	0	0
総 数		2,004	1,995

(3) 徳島市障害者相談支援事業の状況(令和 8 年 3 月 31 日現在)

ア 相談件数の状況

項目	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他	計
障害者	1,477	18	2,743	1,934	68	22	4	6,266
障害児	105	33	425	70	418	0	464	1,515
計	1,582	51	3,168	2,004	486	22	468	7,781

イ 相談内容

内容	件数	内容	件数
福祉サービスの利用等	6,875	家計・経済	85
障害や病状の理解	37	生活技術	70
健康・医療	291	就労	161
不安の解消・情緒安定	97	社会参加・余暇活動	44
保育・教育	18	権利擁護	33
家族関係・人間関係	62	その他	8
計			7,781

(4) 徳島市地域生活支援拠点整備事業の状況(令和8年3月31日現在)

ア 登録者の概要 ※ ()内は重複障害の再掲

身体障害	知的障害	精神障害	その他	計
5 (4)	89 (7)	2 (1)	0 (0)	96 (12)

イ 相談・緊急時受入れ対応

相談		緊急時受入れ		
電話	来所	契約数	見学・体験	緊急時受入れ
30	3	79	8	1

(5) 徳島市障害者虐待防止センター等業務の状況(令和8年3月31日現在)

通報・届出等件数

通報・届出	22
その他(相談など)	19
合計	41

2 重点取組事項

(1) 質の高い相談支援の提供及び専門性の向上と各委託事業の実施

利用者のニーズに寄り添った質の高い支援体制の維持に努め、報酬改定に伴う制度運用を適正に行うとともに、定期的な内部研修・外部研修への参加の促進・発達検査の理解に基づく支援の質的向上を行い、職員個々の専門知識および相談支援スキルの向上を図った。柔軟な働き方の実現を並行させることで、職員が本来の相談業務に集中できる環境を整えた。また、相談支援事業・地域生活支援拠点事業・障害者虐待防止センター等業務の3事業が一体となって機能することで、地域における「切れ目のない支援」と「権利擁護のセーフティネット」の充実化を図り、安定的な相談支援体制の維持・強化に努めた。

(2) 地域共生社会に向けた包括的支援体制への取り組み

地域福祉への理解促進および相談支援のハードルを下げることを目的とし、各種イベントへの定期的な相談ブースの設置を実施した。相談支援事業所としての認知度向上と地域社会との接点拡大を図った。また、自立支援協議会等へ積極的に参画し、行政や地域の関係機関と最新の情報を共有し、ネットワークの構築と、包括的な連携体制の強化を推進した。「地域移行・地域定着支援事業」を計画的に実施し、障害のある方が地域社会で自分らしく生活を送るための移行促進と安定定着を支援した。「自立生活援助事業」の開設に向けては、地域ニーズへの適合性や事業運営体制の在り方を含め、開設の妥当性や必要性、利用者の最大限の利益等を最優先に慎重に検討・討議を重ねた。



令和7年11月23日開催

交流プラザフェスタ

「困りごと相談窓口」ブース

児童デイ フラット未来

児童デイフラット未来は、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の多機能型事業所として定員15名で「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟において事業を行っている。

1 事業活動の概況と進捗状況

(1) 進捗状況

児童デイフラット未来は、「ふらっと KOKUFU」の発達支援棟において、新しく整備した遊具、訓練用具を使用して事業を実施している。

利用実績については、放課後等デイサービス事業と児童発達支援事業の2事業を合わせて、3,961名（前年対比96.3%）となっており、一人ひとりの特性に合わせた発達支援を行った。児童発達支援では、不登校児を受け入れ療育活動に取り組み、学校への進学につなげることができた。

① 放課後等デイサービス事業 (利用定員：児発、放デ合わせて15名/日)

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	47	6	8	45
(2) 利用実績	3,713名（前年度実績3,857名）			

② 児童発達支援事業 (利用定員：児発、放デ合わせて15名/日)

契約区分 項目	継続契約	新規契約	契約終了	合 計
(1) 契約状況	6	1	3	4
(2) 利用実績	248名（前年度実績253名）			

2 重点取組事項

(1) 関係機関との協働・連携事業

ワーク&デイ ラクリエにおいてシソの仕分け作業を体験する機会を設け、就労体験を通じ社会参加意識の育成を図った。また、徳島文理大学音楽療法コースの学生および教員による音楽療法を毎月継続して受講し、表現活動や情緒の安定、対人関係の向上に努め、日頃の療育の成果を2月に開催された「みんなのはっぴょうかい」で披露した。加えて、地域交流として地域の子どもや保護者と共同で制作活動に取り組み相互理解と親睦を図った。



▲ 就労体験



▲ みんなのはっぴょうかい



▲ 地域交流活動

ふらっと Café（地域共生事業）

1 事業活動の概況と進捗状況

令和7年度、子どもの居場所づくりでは各種イベント等を通して、年間505名の参加があった。子ども食堂では、食育の一環としてのおにぎり教室や、(株)ふじや様から餃子やスダチ大福等の提供もあり、年間458名の利用があった。また、『ふらっとKOKUFU4周年感謝祭×国府町マルシェWith未来フェス』においては450名の参加があり、多くの来場者が、楽しくイベントに参加された。

貸館件数の内訳としては、団体72件、個人41件、事業所関係が17件と増加傾向。ふらっとKOKUFUの認知度が高くなったことが利用件数の増加に繋がったと考えられる。

令和7年度、イベント開催と併せての総利用人数は3,408名で、地域のコミュニティ提供の場としての役割が大きいと考えられる。また、放課後や週末、長期休暇中には、近隣の小中学生が自由に出入りできる環境を維持し、ふらっとCaféにて通所利用者と同一空間で自然な距離を保ちながら友達と会話を楽しんだり、防災パークで遊ぶ等、17時閉館まで楽しく過ごされている。しかし一部、利用マナーに問題がある場合もあり、注意喚起を行う等の対策を講じているが、利用の方向性等が今後の課題である。

(1) ふらっと Café の利用状況

		令和7年度	令和6年度
貸館関係 (イベント含む)	貸館件数	130	107
	利用人数	1,995	2,183

(2) 子どもの居場所づくり・子ども食堂参加者数（令和7年度）

子どもの居場所づくり	子ども食堂
505名	458名

(3) ふらっとKOKUFU4周年感謝祭×国府町マルシェWith未来フェス参加者数

大人	子ども	参加総数
219名	231名	450名

2 重点取組事項

(1) 「地域のコミュニティづくり」

子どもの居場所づくり推進基金による助成金を活用し、子どもの居場所づくり「みんなであそぼう」のイベント実施と「子ども食堂」を開催した。

(2) 「地域福祉の担い手づくり」

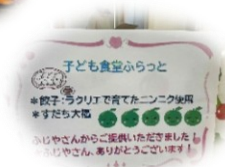
周年祭や子ども食堂等へのイベントに、ボランティアが参画することで、地域福祉を身近に感じてもらえる機会を持つことが出来た。

(3) 「だれもが安心してらせるまちづくり」

国府地区自主防災組織と共同での防災避難訓練や、国府町学校防災学習クラブとの連携イベントの実施、徳島県赤十字奉仕団と連携し、子ども食堂での炊き出し訓練等を通して、防災意識の向上を図った。

(4) 徳島県版ユニバーサルカフェ 認定施設として取組の継続

年齢・性別・国籍・障害の有無に関係なく、誰でも気軽に来館できる場所としての役割を担い、交流拠点としての取り組みを継続した。また、ユニバーサルカフェを新規立ち上げる事業所からの見学依頼もあり、地域の発展に貢献できる施設として今後も継続した取り組みが必要となると考えられる。



徳島県立障がい者交流プラザ（障がい者交流センター）

障がい者交流センターにおいては、障がい者の自立と社会参加の促進に向けた活動と交流の拠点施設として、施設機能を最大限に活用し、地域の方々と共に障がい者の自立と社会参加の促進に取り組んだ。

また、館内入居団体等と協力し節電に取り組むことで光熱水費の抑制を図るとともに、経年劣化による設備の破損等を計画的に修繕するなど、施設の適切な維持管理に努めた。

1 事業活動の概況と進捗状況

令和7年度の会議室等の貸館状況では、利用件数が前年度比で100%となり、利用収入実績は前年度比で83.5%となった。

施設運営については、プラザ講座や企画展の開催、交流プラザフェスタや地域防災講座の開催を通じて地域との繋がりを深めるとともに、スポーツ・芸術文化の活動支援や、とくしま障がい者就労支援協議会と連携し定期的にマルシェを開催することで、「発表の場」「活躍の場」の創出を行った。

（1）会議室等利用実績 （注）利用実日数 359日／年間

項 目		令和7年度実績	令和6年度実績	対前年比
有料施設	件数（件）	2,745	2,708	101.3%
	人数（人）	29,236	27,610	105.8%
ボランティア 室（無料）	件数（件）	263	287	91.6%
	人数（人）	2,602	2,240	116.1%
合 計	利用件数（件）	3,008	2,995	100.4%
	利用人数（人）	31,838	29,850	106.6%

（2）利用収入実績 （単位：円）

令和7年度実績額	令和6年度実績額	対前年比
621,700	744,700	83.5%

（3）実施事業の内容

事業内容	実 施 内 容 等
プラザ講座の開催	① 実施回数：67回 ② 参加人員：593名 ③ 講座内容：絵画 他6講座
夏休み宿題応援 プラザ小学生講座の 開催	① 実施回数：6回 ② 参加人員：139名 ③ 講座内容：書道他5講座
第20回交流プラザ フェスタの開催	① 日 時：令和7年11月23日（日） ② 参加人員：延べ608名 ③ 事業内容：2025秋の感謝祭第20回交流プラザフェスタ

通報・消火・避難誘導訓練	① 実施回数：2回 ② 参加人員：50名（職員及び利用者）
障がい者の自立支援の推進	① 就労場所：障がい者交流プラザ全館 ② 就労者数：5名 ③ 事業内容：館内清掃業務等を通じて障がい者の自立を推進
障がい者作品のロビー展示等	① 実施回数：9回 ② 事業内容：パネル展、利用者演奏会、作品展等
館内連絡調整会議の開催	① 実施回数：2回 ② 出席者数：25名 ③ 会議の内容：プラザの運営に関する連絡協議等
地域防災講座の開催	① 実施回数：1回 ② 出席者数：35名 ③ 事業内容：交流プラザ地域防災講座
ボランティア	① 実施回数：2回 ② 参加人員：40名 ③ 事業内容：夏休み宿題応援プラザ小学生講座、第20回交流プラザフェスタ
障がい者の学びコース	① 実施回数：22回 ② 受講者：233名 ③ 講座内容：スマホ入門 他21講座

2 重点取組事項

（1）「発表の場」「活躍の場」の創出、地域防災講座の開催

交流プラザフェスタでは、特別支援学校生徒の演奏やプラザで活動している音楽サークルの演奏の発表会を開催、プラザ講座で作成した作品の展示など、日頃の成果を発表できる場を設けることができた。

また、地域防災講座を開催し、地域の自主防災の方々、プラザ利用者や館内入居団体の方々とともに、地震への事前の備えとして、建築物の耐震化や災害リスクについて学習した。

（2）積極的な情報発信等

館内デジタルサイネージを活用し、プラザ講座等の募集や館内イベント情報等を発信した。また、SNSを活用しプラザ企画展や講座等の情報の発信も行った。



（第20回プラザフェスタチラシ）



（プラザ講座作品展示）

徳島県立障がい者交流プラザ（視聴覚障がい者支援センター）

視覚や聴覚に障がいのある人の支援専門機関として、点訳・音訳指導員、歩行訓練士、手話通訳士等を配置し、視覚・聴覚障がい者が安心して地域生活を営むことができるよう、関係機関と連携・協働し、一人ひとりに寄り添った支援を目指して、視覚障がいリハビリテーション、情報・コミュニケーション支援事業等を展開した。

1 事業活動の概況と進捗状況

生活訓練事業においては、福祉用具等の相談が増えるとともに、スマホ等の情報機器訓練を活用したい方から、通所・訪問支援の希望があり、合わせて185件増加した。

図書館事業では、テキストデージー図書等を22タイトル受入れ、利用者の利便性向上を図った。

聴覚障がい者への支援について、手話通訳者の派遣要請が増えており、手話通訳士・手話通訳者、要約筆記者の人材育成を行うとともに、手話等についての理解・啓発による人材確保が重要となっている。

ICTサポートセンターとして、ICTサポーターの派遣要請が増加し、延べ人数72名、派遣時間181時間の増となっている。開設から2年が経過し、徐々にICT機器に係る相談場所として浸透が図られている。

（1）進捗状況

ア 点字図書館事業（視覚障がい者情報提供事業）

（単位：タイトル数）

種 別	区 分	令和7年度実績	令和6年度実績	備 考
点 字 図 書	受 入	110	114	
	利 用	1,824(1,691)	1,673(1,514)	
音 声 図 書	受 入	98	109	
	利 用	17,530(16,237)	25,788(24,518)	
テキストデージー図書他	受 入	22	7	
	利 用	938(938)	1,222(1,222)	

※（ ）内はダウンロード数

イ 生活訓練事業（視覚障がいリハビリテーション）

（単位：延べ人数）

種 別	令和7年度実績	令和6年度実績	備 考
相 談	379	266	補装具・日常生活用具、同行援護、PC等情報機器操作上の問題等
通所・訪問支援	277	205	歩行訓練、点字訓練、情報機器訓練等
アウトリーチ支援	31	26	
遠隔支援	10	13	情報機器訓練等
いろいろカルチャー	299	301	料理・手芸、触って分かる博物館、音楽演奏等
計	996	811	

ウ 聴覚障がい者情報・コミュニケーション支援事業 (単位：本数、件数)

種 別	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
字幕入りビデオ等の貸出	31	40
手話通訳者派遣	1,866	1,687
県知事定例・臨時記者会見への手話通訳士派遣	27	32
要約筆記者派遣	114	131

エ 障がい者 I C T 技術活用事業 (単位：件数、延べ人数)

種別	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績
相談	311	372
I C T サポーター派遣	98	26

2 重点取組事項

(1) 情報保障等を担う福祉人材の育成強化

① 点訳奉仕員養成通信講座

・基礎コース

令和 7 年 7 月 1 日～10 月 31 日 受講者 16 名 登録者 10 名

・応用コース

令和 7 年 11 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日 受講者 7 名 登録者 7 名

② 手話通訳者養成講座（徳島会場・つるぎ会場）

・内 容 手話通訳の心構え、基本実技等

32 講座（55 時間）

・修了者数 24 名

(2) 障がい者 I C T 技術活用事業

障がい者 ICT サポートセンターを拠点に、視覚障がい者等の自立と社会参加の促進を図るため、情報通信技術（ICT）の利用機会の拡大や活用能力の向上を図り、情報へのアクセスを円滑に行えるよう支援をした。

① 相談業務

I C T 機器の紹介や貸出、利用に関する相談

相談件数 〈視覚〉 143 件 〈聴覚〉 168 件

② 福祉機器展の開催、機器展出版など

・東京デフリンピック 2025 P R イベント

会場 イオンモール 来場者 190 名

・北島町立図書館読書バリアフリー体験会 (来場者：16 名)

・視聴覚障がい者支援センター福祉機器展 (来場者：160 名)

③ 講習会・研修会の開催

・センスプレイヤー講座 参加者 5 名

・スマートスピーカー体験会 参加者 5 名

・パソコン講座、スマホ講座、〈視覚〉延べ 34 名 〈聴覚〉延べ 33 名

・I C T サポーター養成研修 〈視覚〉 全 6 回 参加者 8 名

〈聴覚〉 全 3 回 参加者 1 名

・I C T サポータースキルアップ研修 iPhone 支援の基礎等 参加者 4 名



東京デフリンピック



I C T サポーター養成講座



福祉機器展

徳島県立総合福祉センター

1 施設概要

徳島県立総合福祉センターは、福祉関係者やボランティア団体等の活動拠点として、昭和58年に開館し、ホールや会議室等の活動の場を提供するとともに、各種福祉情報の発信を通じて、県内の社会福祉の発展に寄与している。

2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の会議室等の利用状況は、前年度と同様に高い水準で推移した。

また、自主事業をはじめとする施設運営においては、企画展や福祉講座の開催に加え、徳島県との協働による「防災・防犯フェア」及び「生涯健康フェア」を実施し、さらに、地域子どもたちとの相互交流を図る「ジョイントコンサート」を開催したほか、建物の維持管理面では、徳島県による「トイレ改修工事」及び「エレベータ耐震補強工事・戸開走行保護装置」等を設置した。

(1) 会議室等の利用状況

年 度		令和7年度	令和6年度	増減率
項 目				
来 館 者 数		67,660	71,809	94.2%
会 議 室 ・ 設 備 (有 料)	件 数 (件)	6,349	6,431	98.7%
	人 員 (名)	65,982	69,761	94.5%
	利 用 収 入 (円)	16,519,260	16,887,550	97.8%
ボ ラ ン テ ィ ア 連 絡 室 (無 料)	件 数 (件)	279	350	79.7%
	人 員 (名)	1,678	2,048	81.9%
	利 用 収 入 (円)	—	—	—
合 計	件 数 (件)	6,628	6,781	97.7%
	人 員 (名)	67,660	71,809	94.2%
	利 用 収 入 (円)	16,519,260	16,887,550	97.8%

(2) 自主事業の内容

事業項目	自主事業の内容
企 画 展	① 実施回数：18回 ② 事業内容：認知症パネル展、ちぎり絵展、災害ボランティアパネル展、Web公開講座など
防 災 ・ 防 犯 フ ェ ア	① 実施日：令和7年9月27日 ② 参加人員：56名 ③ 事業内容：「南海トラフ巨大地震発生時の初期行動」、「特殊詐欺の現状と被害防止対策」をテーマに開催

生涯健康フェア	① 実施日 : 令和7年10月17日 ② 参加人員 : 50名 ③ 事業内容 : 「高齢者への化粧療法」として美容セミナーを開催
ジョイントコンサート	① 実施日 : 令和7年11月30日 ② 参加人員 : 220名 ③ 事業内容 : 近隣3校の小学生による吹奏楽演奏を通して相互の交流を図ることを目的に開催
福祉講座	① 実施日 : 令和7年12月7日 ② 参加人員 : 45名 ③ 事業内容 : ガーデニング講座



防災・防犯フェア



生涯健康フェア



ジョイントコンサート

3 重点取組事項

事業項目	重点取組の内容
館内連絡調整会議	① 実施回数 : 3回 ② 参加人員 : 年間36名 ③ 協議内容 : エレベータ耐震工事、防災訓練の実施ほか
障がい者の就労支援事業	① 参加人員 : 年間294名 ② 事業内容 : 障害者支援施設の利用者が館内清掃業務に従事し、就労活動を通じて自立が図れるよう支援
館内設備等の整備と充実	① 実施内容 : 会議室備品の更新等
徳島県による改修工事	① 実施内容 : 1階・2階トイレ改修工事、エレベータ耐震補強工事・戸開走行保護装置等の設置

徳島県地域生活定着支援センター

1 業務概要

徳島県地域生活定着支援センターは、高齢又は障がいがあり福祉的支援を必要とする矯正施設退所者、また、刑事司法手続き段階にある被疑者・被告人等を対象として、地域生活への円滑な移行を支援している。

そのため、保護観察所、矯正施設、検察庁、弁護士会等の関係機関と連携し、住まい・医療・福祉・就労など多方面にわたる調整を行い、地域生活の定着を図っている。

2 事業活動の概況と進捗状況

本年度の業務執行状況は、保護観察所からの依頼に基づくコーディネート業務（出口支援）及びフォローアップ業務は、概ね前年度並みの実績となった一方で、関係機関からの相談に応じる相談支援業務は、大幅な増加が見られた。

また、「高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援）」は、依頼数が少なかったものの、「徳島県再犯防止総合相談窓口設置事業」では、生活苦や将来不安などに関する多様な相談が寄せられた。

さらに、県民への再犯防止啓発を目的とした「再犯防止講師派遣事業」については、職員による啓発活動の実施件数が前年を下回る結果となった。

（１）業務執行状況

① 地域生活定着支援業務（出口支援）

（単位：件）

年 度		令和 7 年度	令和 6 年度	増減率
項 目				
コーディネート業務	前年度継続分	2	4	——
	本年度新規分	10	9	——
	合 計	12	13	92.3%
フォローアップ業務	前年度継続分	7	5	——
	本年度新規分	8	8	——
	合 計	15	13	115.3%
相談支援業務	合 計	57	25	228.0%

② 高齢・障害被疑者等支援業務（入口支援）

（単位：件）

年 度		令和 7 年度	令和 6 年度	増減率
項 目				
高齢・障害被疑者等支援業務		1	1	100.0%

③ 徳島県再犯防止総合相談窓口設置事業（委託事業）（単位：件）

項 目 \ 年 度	相談件数		主な相談内容
	令和7年度	令和6年度	
徳島県再犯防止総合相談窓口設置事業	46	38	生活苦、病気・住居・仕事への悩み、将来不安等

④ 再犯防止講師派遣事業（自主事業）（単位：件）

項 目 \ 年 度	派遣件数		主な派遣依頼先
	令和7年度	令和6年度	
再犯防止講師派遣事業	5	10	阿南市障がい者自立支援協議会 四国大学経営情報学科ほか

3 重点取組事項

（1）関係機関との情報共有と相互連携

徳島保護観察所及び徳島刑務所との三者会議を毎月開催し、今後出所予定者で支援対象となる方の情報共有を行うとともに、関係機関との連携を図った。

（開催回数：12回、延参加者：132名）

（2）あわサポートネットの開催

県内関係機関との連携を強化し、相互のネットワークの構築によって、再犯防止を推進する「あわサポートネット」を徳島保護観察所及び更生保護団体との共催により県内3箇所（東部、西部及び南部）で開催した。

（開催日：令和7年10月、延参加者：133名）

（3）四国ブロック会議の開催

四国四県の定着センター職員が一堂に会し、定着支援業務全般の情報交換を行うとともに困難事例を通じて円滑な業務の促進に寄与するために開催した。

（開催日：令和7年10月、延参加者：12名）

（4）職員の支援スキル向上

全国地域生活定着支援センター等が主催する専門研修会等に参加し、専門性の向上と困難事例解決のための方策等、職員の支援スキル向上に取り組んだ。

（開催回数：35回、延参加者：44名）

（5）各種関係機関の情報発信

県内の関係機関が実施する再犯防止の取り組みについて、ホームページを通じて紹介し、誰ひとり取り残されることのない「地域共生社会」実現に向けての情報を発信した。

徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

芸術・文化は、障がいのある方々が「優れた才能」を発揮し、「感動」を創造できる大きな可能性を秘めた舞台であることから、センターでは、徳島県における障がい者芸術・文化活動支援の拠点として、「支える」「育てる」「繋がる」「発表する」「広める」の5本柱を基本に事業を進めている。

1 事業活動の状況と進捗状況

- (1) 障がいのある人の作品展示やステージパフォーマンスだけでなく、書道・マスキングテープのワークショップやマルシェなど障がいのある人もない人も共に楽しむことができる、総合イベントとして「みんなの創造フェスター2026とくしま障がい者芸術・文化祭」をあわぎんホールと協力し開催し、発表と交流の機会の拡充を図った。
- (2) 昨年に引き続き新たな発表の機会として、2026年カレンダー用イラスト募集を行い、優秀賞作品12点で彩るカレンダーを作成し、企業団体等に配布した。これにより、障がいのある人の芸術文化活動を広く発信するとともに、障がい者や支援者の創作活動のモチベーション向上を図った。
- (3) 全国公募Tシャツデザイン展では、優秀作品のアーティストとデザイナーとの協働による商品化にも引き続き取り組んだ。今後も、アーティストの自立に繋がる方策の一つとして、需要の裾野拡大に向け広報活動に努める。
- (4) 先進的な取り組みを行っている大阪市にある施設の管理者を招き、アート活動が施設利用者にとってどのような影響をもたらすのかまた、障がい者のアート活動を支援することについて、障がい特性に応じた配慮や方法を学び、施設内でアート活動に適切に対応ができる人材の育成に取り組んだ。

項 目	内 容		備 考
相談支援	作品の販売に関する相談等（電話、来所等）		相談件数 35 件
人材育成	講演会・ ワークショップ	アトリエコーナスの軌跡「アートで開く心の扉」	参加者数 34 名
		作品展示を考える	参加者数 8 名
		身体表現	参加者数 14 名
		知的財産権に関する法律相談	参加者数 3 名
		写真による表現	参加者数 9 名
		レザークラフト	参加者数 12 名
ネットワークづくり	企画委員会の開催		1 回 R8.3.11（水）開催

発表等の機会の創出	露口誠二作品展	出品数 13 点
	第5回全国公募「Tシャツデザイン展」 優秀賞5点、入選30点	応募数 794 点
	「障がい者アーティストの卵」発掘展	出品者数 95 点
	2026年カレンダー用イラスト募集	作品数 256 点
	プラザギャラリー	企画展 4 回 貸出 7 回
	みんなのはっぴょうかい	出演者数 19 グループ 225 名
	プラザショップでの作品販売	作家数 2 名 出品数 6 点
	S p r i n g 展	作家数 8 名 出品数 18 点
情報収集	訪問調査 新たな作家・作品の発掘	訪問数 4 回
情報発信	ウェブサイト	アクセス数 (1 日 平 均) 103 回
	S N S 等 (フォロワー数等)	Instagram 609 人 YouTube 43 人

2 重点取組事項

(1) 「みんなの創造フェスター2026とくしま障がい者芸術・文化祭」の開催

- ア 日時 令和8年2月11日（水・祝）から2月15日（日）まで
- イ 会場 あわぎんホール1階ホール 他
- ウ 共催 公益財団法人 徳島県文化振興財団
- エ 協力 とくしま障がい者就労支援協議会
- オ 内容 美術部門「第12回障がい者アーティストの卵」発掘展
舞台芸術部門「第4回みんなのはっぴょうかい」、ゲストパフォーマンス
「みんなのマスキングテープアート」
「みんなで楽しくでっかく書こう！」
エシカルマルシェ&キッチンカー
- カ 来場者 1, 283名（5日間）
- キ 成果 全ての内容について、「大変良い」、「良い」が60%から70%を占め、高評価を得た。

色々な作品を見たり作ったりする楽しさがあって、思い出になる一日になりました。次回も来ます！（アンケート結果より）

（２）第５回全国公募「Ｔシャツデザイン展」

- ア 日時 令和７年７月１１日（金）から９月１７日（水）
イ 会場 徳島県立障がい者交流プラザギャラリー及びアミコ東館２階
エ 応募数 ７９５点
オ 内容 全国から募集したＴシャツのデザインをクリエイターが審査。入賞者と協働で商品化を行い入賞者に活動資金として売り上げから還元する。
カ 成果 過去最高数の応募数があった。また、徳島市内の商業施設で展示することで、障がい者アートの素晴らしさを広く知って貰えるきっかけとなった。



「露口誠二 作品展」
（県立障がい者交流プラザ）



第５回全国公募「Ｔシャツデザイン展」
（アミコ東館 ２階）



「障がい者アーティストの卵」発掘展
（あわぎんホール）



「みんなのはっぴょうかい」
（あわぎんホール）

ノーマライゼーション促進センター

ノーマライゼーション促進センターは、障がい者の自立と社会参加を促進するための啓発広報活動やリフトバスを運行することで、日常生活の支援に努めた。

1 事業活動の状況と進捗状況

(1) 実施事業の内容

ア 心の輪を広げる体験作文及び障害者週間ポスター募集

- ・募集期間 令和7年7月1日（火）～9月4日（木）
- ・応募数

	小学校	中学校	高校	一般	計	各部門において、最優秀賞、優秀賞、佳作を選考し令和7年12月「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」表彰式並びに「徳島県障がい者マイスター」認定証授与式において表彰した。
作文	34編	13編	5編	3編	55編 (前年度実績 21編)	
ポスター	1点	4点			5点 (前年度実績 10点)	

イ 障がい者による書道・写真の募集

- ・募集期間 令和7年8月8日（金）～9月8日（月）
- ・応募数

書道部門：銀賞1人、銅賞2人 写真部門：特別賞1人、金賞2人、銀賞2人、銅賞3人

書道	63作品 (前年度実績 45点)	写真	20作品 (前年度実績 19点)	全国審査（全国障害者総合福祉センター）への応募を行った。
----	---------------------	----	---------------------	------------------------------

ウ 徳島県障がい者福祉バス（リフト付きバス）の利用状況

	県内	県外	計	徳島県身体障害者連合会、徳島県視覚障害者連合会、徳島県精神保健福祉協会 他
回数	10件 (前年度実績 15件)	28件 (前年度実績 19件)	38件 (前年度実績 34件)	
人数	220人 (前年度実績 310人)	609人 (前年度実績 418人)	829人 (前年度実績 728人)	

2 重点取組事項

- (1) 「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」表彰式並びに「徳島県障がい者マイスター」認定証授与式を開催し、障がい者の自立と理解促進を図った。
- (2) リフトバス運行事業を実施し、障がい者の方々が、安心・安全に利用できるように支援に努め、障がい者の自立と社会参加を促進した。



「心の輪を広げる体験作文」及び「障害者週間のポスター」表彰式並びに
「徳島県障がい者マイスター」認定証授与式



障害者週間のポスター最優秀賞
(小学生の部)



障害者週間のポスター最優秀賞
(中学生の部)

徳島県パラスポーツ協会

障がいの有無に関わらず、誰もが楽しむことができるパラスポーツ(＝もうひとつのスポーツ)の推進と障がいのある人もない人も誰もが主役となって活躍する「共生社会」の実現を目指し、インクルーシブスポーツの環境整備に取り組んだ。

1 事業活動の状況と進捗状況

(1) 実施事業の内容

事業目的	事業内容	実施内容等
社会参加の促進	全国障害者スポーツ大会派遣事業	1 期 間：令和7年10月25日(日)～27日(月) 2 開 催 地：滋賀県 3 派遣人数：個人競技7競技22人、聴覚バレー7人、コーチ・役員40人 計69人
パラスポーツの交流支援	ノーマピック・スポーツ大会	1 開 催 日：令和7年4月、5月の間 7競技 2 場 所：スエヒロボウル、徳島県立障がい者交流プラザ 鳴門・大塚スポーツパーク 3 参加人数：298人(前年度実績 278人)
	徳島県南部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開 催 日：令和7年6月8日(日) 2 場 所：阿南市那賀川スポーツセンター 3 参加人数：選手20人、審判等6人 計26人
	徳島県西部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開 催 日：令和7年6月15日(日) 2 場 所：池田総合体育館 3 参加人数：選手36人、審判等6人 計42人
	徳島県中部地域ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開 催 日：令和7年7月6日(日) 午前の部・午後の部 2 場 所：東部防災館おきのすインドアパーク 3 参加人数：選手77人、審判等13人 計90人
	徳島県ノーマピック・ボッチャ交流大会	1 開 催 日：令和7年8月24日(日) 2 場 所：東部防災館おきのすインドアパーク 3 参加人数：選手38人、審判等12人、計50人
	特別支援学校対抗ボッチャ大会	1 開 催 日：令和7年11月26日(水) 2 会 場：日本フネン市民プラザメインアリーナ 3 参加人数：ボッチャ38人、ターゲットボッチャ(オンライン) 38人
指導者の育成	とくしまパラスポーツ人材バンク設置事業	1 登録者数：114人(前年度実績 107人) 2 派遣件数：160件(前年度実績 195件)
パラスポーツの普及、促進	パラスポーツ交流支援事業(2026 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル)	1 目 的：パラスポーツを通じた交流促進とパラスポーツの理解促進・普及啓発を図るため、年齢や障がいの有無にかかわらず、様々な種類のパラスポーツを楽しむことができる体験会を開催 2 開 催 日：令和8年2月1日(日) 3 開催場所：徳島県立障がい者交流プラザ 4 参加人数：200人(前年度実績 200人)

	地域におけるパラスポーツ実施環境整備事業	1 目 的：パラスポーツの振興に資する競技用具の整備を必要とする障がい者スポーツ団体に補助金を交付 2 補助団体：8 団体（1,211,363 円） 3 補助内容：ボッチャ、バレーボール用具等への補助。
	出張スポーツ教室	1 開 催 日：令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月 2 回数：1 0 8 回（2, 018 人） 前年度 107 回（1, 705 人）
	オンラインスポーツ教室	1 開 催 日：令和 7 年 6 月～令和 8 年 2 月 2 回 数：1 2 回 前年度 1 6 回
	地域におけるパラスポーツ振興事業（競技団体・クラブ・サークル設立支援事業）	1 目 的：全国障害者スポーツ大会の出場を目指し、中国四国ブロック予選会における団体競技の参加を目的とし、チーム結成を実施するために県内のアスリートを発掘する。 2 開催日：令和 7 年 9 月から 1 2 月の間、3 回 3 開催場所：東部防災館おきのすインドアパーク 4 内 容：知的バレーボール競技、知的フットサル競技の選手発掘を行うため、競技団体と連携し測定会、体験会を実施 5 参加人数：6 4 人
	徳島県パラスポーツ推進プロジェクト（特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行支援事業）	1 目 的：障がいの有無や年齢にかかわらず、身近な場所で「ともに」スポーツをすることができる機会を創出することで、スポーツによる共生社会の実現を目指すとともに、特別支援学校等における運動部活動の地域連携・地域移行の実施体制を構築する。 2 内 容：①パラスポーツ指導者等派遣事業 5 0 回 ②アスリートによる地域スポーツ機会づくり事業 2 回 ③デフ・パラ卓球一体化事業 8 回
パラアスリートの発掘・育成	パラアスリートの卵発掘！パラスポーツ・チャレンジ事業	1 目 的：多様な遊びや運動を実施し、県内で活動するパラスポーツ競技団体につなげ、生涯スポーツを続けることの出来る環境整備を行う。 2 開 催 日：令和 8 年 1 月の間、3 回 3 開催場所：徳島県立国府支援学校体育館 4 内 容：徳島県立国府支援学校 高等部生徒を対象に身体能力測定やスポーツ体験実施。フットサル、バスケットボール、バレーボール競技団体と連携し体験会を実施した。 5 参加人数：1 1 人

2 重点取組事項

- (1) 中国四国ブロック予選会における団体競技の参加を目的とし、チーム設立のため知的バレーボール競技と知的フットソフトボール競技の選手発掘を行った。知的フットソフトボール競技はチームを設立し、中国四国ブロック予選会に参加した。
- (2) アスリートによる地域スポーツ機会づくり事業において、プロアスリートや国民スポーツ大会出場選手による指導を行った。



ノーマピックススポーツ大会



第24回全国障害者スポーツ大会



2026 頑張るんじょ！とくしまパラスポーツフェスティバル